

北海道指定文化財

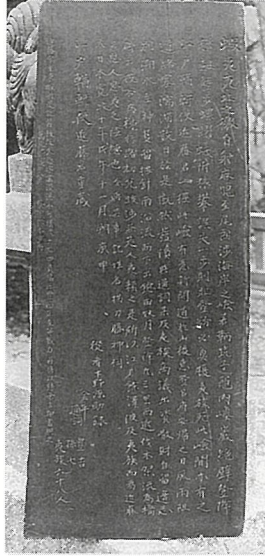
とうかしんどう きちようじ ばん

東蝦新道記彫字板

所在地 広尾町茂寄一番地

管理者 十勝神社

指定年月日 昭和四三年一月一八日



寛政十年（一七九八）江戸幕府は蝦夷地経営の方針を樹てるため、大

規模な探検隊を組織し調査に当らせることになり四月、勘定奉行石川左

近将監忠房の統轄下に目付渡辺久蔵胤、使番大河内善兵衛政寿、勘定

吟味役三橋藤石衛門成方ら百八十余人を派遣することに決定した。一行

の中に大河内善兵衛の配下に支配勘定方・関東郡代付役近藤重蔵守重

がいた。重蔵は別動隊を編成し、四月十五日江戸を出発した。別動隊は

重蔵のほか木村謙次こと下野源助、秦憶丸こと村上島之丞、

佐々木良助、ほかに三人の中間であつた。一行は国後島で後

発の最上徳内と合流した。一ヶ月後の五月十六日松前に到着、

松前から東海岸を通り箱館、室蘭、浦河、幌泉を経て尾朗に

至り、この間、詳さに海岸の難所を見聞している。尾朗では

風雨のため滞留したが、この間、海岸路をさけての山道開削

を考えたのでなからうか。十五日出發、クスリ（釧路）アツケシ（厚岸）

を経て二十五日根室に到着、二十八日久奈尻（国後）に渡り、更に二十

七日扨扨に到着、翌二十八日にかの有名な「大日本恵登呂府」の木表を

建てた。得撫島への渡海を断念した一行は帰帆の途につき十月二十四日

尾朗に到着した。重蔵は早くも二十六日に太郎というアイヌに山道越え

の見分^{けんぶん}に出発させ、山道開削を下野源助、通辞^{つうじ}豊吉と孫七、金平の四人に命じ、ルベシベツからビタタヌンケの間に山道を開削した。工事は二十九日に終え、下野源助は工事の顛末^{てんまつ}を彫字板^{てんまつ}にして刀勝神祠（十勝神社）に奉納した。山道の峠（ルウチシ）に木表を、ルベシベツに「おぼえ」なる榜示^{ぼうじ}を建て、通行の人に山道の維持を訴えた。

アイヌ六十八人を動員し、開削に要した器材はマサカリ、なた、鎌、通用鎌、とう鋏などで道路というより刈分け路^{かりわ}ほどのものであった。後世の探検家、史家は「蝦夷地道路開削の嚆矢^{こうし}」として賞讃している。

十勝神社に現存する、東蝦新道記彫字板は万延元年（一八六〇）箱館奉行の戌士^{じゆし}、鈴木重尚（茶^さ援^{えん}）らが、再書、再鑄^{さいしやう}したものである。また「おぼえ」なる榜示は拓本として東京大学に収蔵されている。（別掲、広尾の古写真参照）また禅林寺に収蔵されている「山道開発之記・写」は、本文と同一のものである。（別項、「山道開発之記」を参照）

東蝦新道記碑文は次の通り

◎近藤重藏氏東蝦道路開鑿記碑文訓讀

蝦夷東北ノ¹徼¹（國境）射麻兒²（地名）現在ノ³樣似³ヨリ尾朗⁴（地名）現在ノ⁵廣尾⁵ニ至ル海岸ノ⁶嶮ヲ⁶渉ル、
鞆⁷筑子⁷厓内⁷（地名）現在ノ⁸谷磯九號墜道附近⁸ノ⁹若キハ⁹嶋巖絶壁⁹登降¹⁰趨¹⁰蟹歩¹¹螺躍¹²蟻附¹³猿攀¹⁴誤テ一
歩を失スレバ則チ¹⁵蠶粉¹⁵スルニ非ザレバ必ズ¹⁶魚腹¹⁶夷族ノ此ノ¹⁷嶮間¹⁷ニ死スルモノ亦有之、江戸ノ¹⁸輜軒使¹⁸近藤君
一タビ此ノ¹⁹嶮ヲ¹⁹徑¹⁹新二道ヲ山ニ開カムトスルノ²⁰意²⁰有リ後惠登呂府ヨリ安歸ノ日風雨阻ミ道路塞ガリ滯濡數
日はニ於テ²¹慨然發憤シ²¹通詞某及ビ夷族ト²²商議シ²²出資散財²³留邊志別²⁴（地名）現在ノ²⁵ルベシベツ²⁵ヨリ水ヲ²⁶溯²⁶
リ、神芟留²⁷（地名）日勝國境ビタタヌンケ川上流²⁸ニ至リ針ヲ²⁹按シ²⁹南ノ流ニ沿ヒテ下リ、鑑田奴月³⁰（現在ノ³¹日
勝國境）ニ出ス登降凡ソ三里、而シテ近ク木ヲ伐リ流ニ架シテ橋トナシ石ヲ碎キ谷ニ投ジテ梯ト爲セバ行路初
メテ兌³²跋涉³²危キコト無シ人夷之ニ頼ル是江戸ノ³³餘澤夷族ニ波及シ而シテ近藤君人ヲ思ヒ夷ヲ思フノ³⁴陰德³⁴ノ
爲ス所以ナリ、余其ノ事ニ與リシ姓名ヲ記シ刀勝神祠ニ掲グ

大日本寛政十年戊午十一月朔庚申³⁵

江戸輜軒使近藤君重藏

從者 下野源助錄

金 平

通詞 豐 吉

孫 七

夷族六十八人

近藤守重東蝦新道ノ記舊板既ニ久シク字畫漫漶トシテ讀可ラザルヲ恐レ戊士三四員橘正豊、西正友、等
戮力再鑄ヲ余ニ請フヲ似テ言即チ之ヲ書シテ與フ

萬延紀元庚申八月

茶溪鈴木重尚

東蝦新道記

難解な字句があるので、これに解説を加えておこう。

1 微^{キミツ}境界のことで、ここでは口蝦夷と奥蝦夷の境を様似と広尾の間としている。ここには様似山道、猿留
(さるる) 山道など、寛政十一年(一七九九)幕府が開削している。

2 射麻兒^{シヤマニ} 日高管内様似町。

3 尾朗^{ビロウ} 広尾のこと。このほか美朗・比朗・美楼などの当字がある。

4 嶮^{ケン} けわしいこと。難所のこと。

5 靱筑子^{トモチクシノイ} 靱内 いずれも地名で、現在の黄金道路の谷磯の地名。

6 巉巖^{ザンガン} 絶壁 ざんは山が高く険しい、巖はいわ、またはけわしい意味で、いずれもけわしいさま。絶壁はき
り立った崖のこと。

7 趙^{シン} 趙も趙も行きなやむ意で、足の運びのよちよちするさま。

8 蟹歩^{カイホ} 蟹が歩くように横向きになって歩く。

9 螺躍^{ラヤク} かつむりがとび出すように、ここでは波の合間をみてはねること。

10 蟻附^{ギフ} 蟻のように多くまつわりつくこと。

11 猿攀^{エンパン} 猿が木をよじ登るさま。

12 蜜粉^{セイフン} 粉々に砕け散る。

13 輜軒使^{ユウケンシ} 軽い車。天子の使者が乗る車。ここでは江戸の輜軒使とあるので將軍の使い。幕府の使者。

- 14 慨然^{ガイゼンハツアン}發憤^{ハツアン}|| いきどおり。嘆きの氣持をふるいたたせる。
- 15 通詞^{ツウジ}|| 通訳のこと。ここでは日本語とアイヌ語の通訳のこと。
- 16 夷族^{イゾク}|| アイヌのこと
- 17 商議^{ショウギ}|| 山道を開削する費用のことで話し合う。
- 18 留邊志別^{ルベシベツ}|| 地名。現在のルベシベツ。
- 19 神芟留^{カンサカル}|| 地名。日高と十勝の境にあるビタタヌンケの上流。
- 20 針ヲ按^{ハリをアン}|| 按は調べること。ここでは針路方向を調べる、測量のこと。
- 21 鏝田奴月^{ビタタヌンケ}|| 地名。日高と十勝の境。
- 22 トオル 兌^{トオル}|| 通る。開通のこと。
- 23 バッショウ 跋渉^{バッショウ}|| 山を越え、川を渡ること。
- 24 ヨダク 餘澤^{ヨダク}|| 後の世まで残る恵み。
- 25 イントク 陰徳^{イントク}|| かくれた善行。
- 26 サツコウシン 朔庚申^{サツコウシン}|| 十千十二支で年、日をあらわしている。寛政十年は戌年、十一月朔（一日）は庚申にあたる。
- 27 マシカン 漫漶^{マシカン}|| とりとめのない、さわりのある場所。ここでは旧板が古くなり判読しにくいような部分のあることをいう。
- 28 ジュン 戌士^{ジュン}|| 守衛の士で、ここでは箱館奉行に詰める武士のこと。
- 29 リクリョク 戮力^{リクリョク}|| 協力して。

- 30 再鑄^{サイセン} || 再び彫りなおすこと。
- 31 茶溪^{サケイ} || 江戸御茶の水のこと。鈴木重尚は箱館奉行に詰める人であるが、江戸は御茶の水に住む漢学者でもあった。